

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100859		
法人名	有限会社ほほえみの里		
事業所名	グループホームほほえみの里	ユニット名	牧水館
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰甲697-5		
自己評価作成日	平成22年11月22日	評価結果市町村受理日	平成23年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosisip/infomationPublic.do?JCD=4572100859&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然林を切り開き南向きの開放的な場所にある。日当たりがよく空気もきれいで、季節ごとの山菜も豊富にあり、利用者と共に山菜摘み、みかん狩り、トマト摘みなどが出来る。早朝には小鳥のさえずりが聞かれ、心が洗われる思いがする。地域との交流を大切に、イベントへの招待を住民の方々が楽しみにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの存在が地域の中で孤立することなく、また、地域の中で期待されるホームを目指し、運営者や職員は、消防団や公民館活動に積極的に参加している。年間行事では、納涼祭には地域の方達を招いたり、盆踊りやグラウンドゴルフには地域に出かけている。個人でも利用者に、みかんやトマトの収穫体験をさせたり、野菜を提供される方もあり、交流は拡大している。課題であった運営推進会議や夜間を想定した火災訓練も実施されている。職員の交代で介護の経験や問題意識も異なる中、認知症介護の共通理解に有効なチェックリストが作成され、理念の実現に向け円滑な人間関係を前提に、質の高い介護を提供する意欲がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意識付けをミーティング時に唱和するようにし、理念の共有をして実践につなげるようにしている。	職員は利用者に対し、「親や子、兄弟姉妹達が家族の一員として、笑顔で日々の支援を行う」という介護理念を掲げ、それに向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとにイベントを行い、利用者様家族、地域の住人等を招待し交流を深めている。又、地域の方々より季節の野菜等を持ってこられ、利用者との交流をしている。	納涼祭は、地域の方達や家族も参加して利用者と共に楽しんでいる。地域の方達からは、ホームの状況を理解してもらう機会となり、地域ぐるみや個人的にも相互の交流が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人を抱えている地域の方の相談を受け、認知症に対する対応方法等を共有している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は思うようにいかなかった推進委員会を、今年度は2ヶ月に1回行い、構成員の方々との意見交換を行い有意義な話し合いを持つ事が出来た。	今年度は2か月ごとに開催し、近々の状況に対する推進委員との協議や助言、協力がタイムリーに行われ、ホームの運営に反映されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と連携をとり、分からないこと等を尋ね指導を請うている。	市職員の異動により担当者の交代時は、ホームの現状等を伝え、良好な連携が維持されるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、職員全体で共有している。	身体の拘束や玄関の施錠をしないケアが行われている。更に、身体拘束や尊厳も含めた認知症介護の基本理解のチェック表を活用し、実践する取組が検討されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外泊後の身体の異常等を観察するようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、他の職員にも報告にて内容が伝わるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得のいく説明を行い、締結している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	軽度の認知症の利用者様も運営委員会に出席していただき、意見等を聞くようにしている。		日々の暮らしの中で利用者の思いや意向を引き出すようにするとともに、家族の来訪時や運営推進会議での家族代表者の意見を反映させるようにしている。	「ほほえみ便り」に、日々の暮らしぶりや献立等を掲載し、家族の意見を引き出しやすくするとともに、家族以外の地域へもホームが紹介されていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進委員会がある事を伝え、意見等をもらうようにしている。会議後の議事録を職員に開示している。		ユニット間の意見調整や自己評価票作成等に全員で取り組んでいない部分はあるが、毎月の職員会議で出された意見を運営に反映させる努力がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の希望を考慮した勤務表作り、外部での研修にも積極的に参加できるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員に法人内外の研修を受ける機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との交流の機会を作りたい。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴し、不安なく施設利用が出来るように配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面会時は、なるべく多くのコミュニケーションを図り、家族の意見等が聞ける雰囲気作り心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が安心して必要な支援が受けられるよう、コミュニケーションをとるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で、会話をしたり、家事をを共に行う事で知恵を教わったり、その人の良さを引き出し援助に活かせるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内の行事の際には、事前に家族に連絡をし参加してもらっている。また、出来る限り面会に来ていただくように声掛けしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には出来るだけ面会にきてくださるようお願いしており、定期的な面会が困難な家族には、時々電話にて本人と話してもらっている。	利用者が希望している会いたい人や行きたい所を引き出し、実現に向けて家族にも協力を依頼している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が係われる場を作るよう努めている。職員も交え、皆が仲良く交流を図れるように配置している。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話、文書にて行事への誘い、また、亡くなった方への線香あげ等を行い、係わりを持つように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前、入所時の面接で本人、家族の希望を聞き、本人の希望に沿った生活が出来るよう、また、普段の会話の中で生活歴を把握するよう努めている。	利用者の生活歴の延長で菜園やしいたけ栽培が行われている。職員が利用者の故郷の民謡に着目し話題にしたところ、昔の話がいろいろと語られた。調査時も生き生きとした表情で故郷の思い出を語り、民謡を歌われていた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活環境、生活歴を詳しく聞き、把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時より細かい観察を行い、現状を把握するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは入所時、面会時に計画希望を聞いている。計画作成の際には、ケアカンファレンスを行い、職員の意見を出し合っている。	計画作成には、家族の参加や職員の意見を出し合い作成している。計画内容は、家族にわかりやすく説明するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員の係わり、本人の言葉など記録するよう努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出等、家族に依頼しているが、困難時には職員で対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民、民生委員、ボランティアの方々には行事の際には参加してもらい、また、地域の色々な行事にも参加させてもらっている。男性職員は地区消防団に入団している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に月1回訪問診療をお願いしている。入所以前より眼科、皮膚科等に通院している方は、継続して受診できるよう支援している。	訪問診療以外の定期外受診は、家族が同行している。症状急変時や入院が必要な時は、協力病院に依頼できる体制である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置しており、他の職員と協力して日常の健康管理を行い、異常時は主治医とも相談をして受診出来るようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時よりサマリーにて情報提供を行い、医療機関と連携をとり、いつでも情報交換が取れる体制作りを努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、早めに家族や協力医と話し合いを行うよう努めている。終末期ケアについての当施設の方針、ケアの内容等について文書にまとめ、利用者や家族に説明できる準備を行っている。	終末期の経験はあるが、利用者や家族の希望を最優先にしたい思いと、職員の力量や心の負担によるためらいがあることなどから、運営者、介護職、看護職、家族及び協力医の間で、結論には達していない。	尊厳死や看取りに対する、家族や職員の理解や役割の共有が必要である。その時の増員体制や医療連携の制度も含め、誰もが納得できるケアができるよう検討されることを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急処置、初期対応の出来る状態ではないが、研修への参加、勤務表への配慮を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での訓練を実施し、運営推進会議の場で、地域住民の協力を依頼する。	11月16日に夜間職員体制で、出火を想定した避難訓練を実施している。火元確認、連絡、通報、避難誘導の一連を消防署職員の講評を受け、避難誘導を繰り返し継続することを認識した。		

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライドを傷つけないよう表情、言葉遣い、態度には十分気をつけている。個別の記録も利用者の出入りのない場所に保管している。		入室や介護は了解を得る。失笑しない。呼称は家族の同意を得るようにして、職員の自覚を促すとともに、家族から誤解を招かないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるように支援しているが、業務中心になる事もあるので、臨機応変に動ける姿勢作りを心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理・美容院がある人は家族にお願いして連れて行ってもらっている。また、本人の好きな服を選んでもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っている。洗い物、食べた後の食器片付け等を手伝ってもらっている。		利用者の希望や収穫した野菜やしいたけを使い、ユニットごとに献立を作り、購入と調理は主に職員が行っている。利用者もできることは参加している。今後業務を見直し、省力化できる部分を検討する意向である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より指示が無い限り、普通食で(状態に応じて粥食、キザミ食あり)、体重の増減、高齢者は脱水傾向にあるので水分補給に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に自分で出来る方は声掛け誘導、出来ない方は介助にて行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、排泄パターンを把握し誘導している。オムツ使用の方も日中はトイレで排泄できるよう誘導している。		リハビリパンツやパット使用者も、トイレで排泄し、自己管理できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を提供したり、食事摂取量にも注意している。リハビリ体操等、活動において適度な運動を実施したり、腹部マッサージを行うようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務的に午後を入浴時間としているが、好みの時間、その日の状態に配慮して支援している。		入浴がおっくうになる方も多くなるので、ゆず湯やゆったりした環境で入浴が楽しみになるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋で休みたいとの訴えがあった時は休んでもらっている。ホールにソファが置いてあり、いつでも休息できるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬は施設で管理している。薬の目的、副作用など把握できるよう職員に呼びかけている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが役割を持てるような場所作りをしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞いた上で、行きたい場所などに出かける工夫をしている。車椅子使用の方も行ける場所を選んで実施している。		散歩や四季折々の外出行事、家族の協力を得て、外出の機会を多くするよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行いながら、本人の欲しいもの等を聞き、買い物等を支援し金銭出納長に記載、随時家族の印鑑をもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話したい方には、電話等で話せるよう配慮をしている。イベント時に撮影した写真等を家族に送付している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけを工夫し、家庭的な雰囲気気が持てるように配慮している。	今の季節を感じ、季節にまつわる思い出を振り返ってもらう機会になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに座る場所、ソファーに座る場所等を配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでもらい、違和感なく過ごせるように配慮している。	安心して落ち着いた気持ちで過ごしてもらえるよう家族にも働きかけ、希望者には自室に表札を使うことを検討している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせたスロープの増設をしている。個室のドアに目印を貼り付けている。			